「平和と人権」市民ネットワーク情報　N020-8

事務局発行(℡ 0557-45-1182)　http://peaceito.moo.jp　　2020.8/11

7/28　富戸の学童保育ー田畑さんに聞くー

今日(7/28)、**田畑まどかさん**に富戸の学童保育の立ち上げから現在までの実状を話していただきました。本人を含め9名が学習会に集いました。4年前学童の設立を決意し、マニュアルも何もないなかで仲間のママさんたちと手を繋いで設立にこぎつけた努力と情熱に感動しました。当初は財政的な基礎が不安定で、半ば支援員さんのボランティアのような活動だったそうですが、今は市からの委託費と子どもの数も増えたことによって安定的な運営ができるようになったそうです。今年2月27日にコロナによる突然の一斉休校措置が取られたため、朝10時から開所し、一日10時間も勤務する過酷な状況に置かれたことを語っていました。小規模校で子どもたちに目配りできることが富戸の学童の良い所だそうです。ただ預かるだけでなく、小学校との連携を密に行い、子どもたちの成長に心を砕いていることがよくわかりました。身近な問題について、如何に知らないことがたくさんあるかを知りました。　（事務局宛メール　三好康昭）

質疑応答から

問

教員をやっていたんですが、学童の必要性というのは教員の立場からもわかったんですけれど、立ち上げる時に一番大変だったのは何ですか。

田畑

一番大変だったことと言うよりは、学童をつくるというマニュアル自体が市になかったんです。他の学童さんは昔からある学童さんなので、「立ち上げのとき何をしたのか」と聞いても、細かいことまでは分からず、本当にすべて試行錯誤で進めていったというのが大変だった。経理の問題とか支援員を募集するというところも、素人には難しいことも多々あり、とても苦労しました。あとは子どもたちが集まるかという不安は大きかったです。立ち上げる会の子どもたちは加入しましたが、その後子どもが本当に増えていくのか、というところが大切で、ずぅーと10人に満たない学童だと、おそらく運営できていなかったと思う。小学校、保育園、幼稚園、全部にアンケートをとって「何年後には何人集まる」と細かく調査をし、教育長さんに「何年後にはこれだけ集まる予定だから、どうか富戸に」というお願いをしに行った。市役所に掛け合うノウハウも私には無縁の世界だった

ので、そこは市議会議員さんの力をお借りしたりしてやってきた。何が大変だったというより、すべてが分からなかったので。だから、マニュアルがあればどれだけスムーズだったか、と思う。今回、池で学童開所に向けて活動しているため、富戸立ち上げのノウハウをお伝えしました。おそらく富戸を立ち上げるよりはスムースに動けていると思います。

※田畑さんの報告とアンケートを同封(添付)しました。質疑応答は次号で紹介します。

「安保・地位協定」学習会を終えて　戸田斉

ここ３か月余りの間、前後４回に亘り、一言で言えば個人的には最近の所謂学習会のなかでは一番の成果を得ることが出来た、と言って間違いがないものでした。この学習会に参加された方は毎回殆ど１０名に届くかどうかという寂しい状況ではありましたが、事、私にとっては自らの不勉強と学ぶ事の大切さ、重大さについて反省を込めて、伊東市にお住まいの沢山の同胞の皆さんが折角の学習機会を逃されたことに、同情でなく云い様のない無念な気持ちを表さずには居れなかった事は確かでした。

(6/25、第三回学習会の様子)

前置きが長くなりましたが、私たちが現在置かれている日常的な、社会的なはたまた政治的な立場、状況がどのようなものかは、今回学習対象にした日米地位協定を知ることによってはっきりさせることが出来たのが、この間の日本政府なりの対外的な動き、特に安全保障に関係する対米、対中国、広くは国連内での一挙手一投足がどうもこの日米安保条約と地位協定に基づくものであって、決して日本国憲法に依ったものではないとの漠然とした感じが、明確に姿・形をはっきりさせてくれるものでした。今頃そんな事を！遅れていませんか？先日のイージスアショア、あっという間に数千億円の武器の購入・導入を決めてくる、だけど無理だったから止めることにした。オスプレイ配置、どこでもお好きな基地にどうぞ。一機 100 億円を優に超す戦闘機を 100 機を越えて導入する、それもローンで。辺野古基地、底なしの海を意地でも埋め立て、何兆円も費やす、等一体何の為なのでしょうか？

最終回でのビデオ映像での米軍との共同訓練作戦、米軍指揮下の訓練とは云え、あんな馬鹿げたことを、大事な時間と費用を掛けて十分な成果があった？私達が学んだ日米地位協定とは、相も変わらない米の従属下で、独や伊の強さ？とは似ても似つかない日本、延いては自民党の弱さ、情けなさであり、自分たちの展望を描けない独立国？国連常任理事国？阿保か！

コロナ禍通信 19（7/18 付）

新型コロナ 第二波到来か？

大久保伸子

■東京都など都市部の感染拡大

緊急事態宣言が解除された後、経済活動の自粛がなくなって、やっと以前の日常生活が戻ってきたように見えますが、その一方で、増え続ける感染者数を見る度に、今の状況をどう受け止めれば良いのか途方に暮れてしまいます。特に心配なのは東京都や大阪府など都市部での感染拡大です。

■都政の問題と国政の問題

「コロナ禍通信-16」では第二波が到来した北九州市のケースを見ましたが、東京都はそれと同じ感染拡大の道を辿っているように思えます。

北九州市では第二波の到来を受け、それまで発熱などの症状が見られた場合に限り濃厚接触者を PCR 検査していましたが、5 月 25 日、方針を見直して症状がない人も含め濃厚接触者全員を検査の対象にすることにしました。その結果、新規感染者数のグラフを見ると、検査拡大の後、一時的にその数は増大しましたが、6 月下旬からは新規感染者数ゼロの日も見られるようになりました。

他方、東京都の小池知事は 7 月 2 日に「東京アラート」を発令し、7 月 11 日に解除していますが)、「東京アラート」それ自体は新規感染者数を減らすための実質的な取り組みではありません。ただ単に感染状況を知らせて都民に警戒を促すためのものに過ぎません。

それどころか、「東京アラート」の発令基準を遙かに超えた現在であっても、「東京アラート」は解除されたままなのです。小池知事は「東京アラート」解除の記者会見で「これからは自らを守る自衛の時代。自粛から自衛の局面だ」と述べています。

「自衛」という言葉を聞いた時、私は自分の耳を疑い、この言葉が都知事の口から出たものであることに衝撃を受けました。国民や都民が、国政や都政を信頼できず「これからはもう自粛するしかない」と言うならば分かります。しかし、都政の責任者がこのようなことを言った時、それは責任の放棄であり、都知事であることの不適任を自ら表明することに他なりません。

国政も都政も、「やっているふり」を示すだけであって、感染拡大防止に本腰を入れて取り組んでいるようには思えません。残念に思うのは、感染拡大の最中に都知事選があったのにも関わらず、選挙結果は小池都政に信任を与えたということです。個々人の命と生活に密接に関係する選挙でありながら、約半数の有権者が棄権したということも大きな問題でした。たとえ国政に問題があったとしても、東京都独自で取り組んで状況を改善する可能性はあったにも関わらず、都民はその絶好の機会を逃してしまいました。

パンデミックは個々人の自衛で乗り越えられるものではありません。こういう時こそ政治の力が示されるべきなのです。政治が適切に対処すれば、国民は安心して生活できるようになるということを先例が示しています。

■ニュージーランドの例

例えばニュージーランドの例を見てみましょう。

政府は 3 月 25 日にロックダウン（都市封鎖）を開始し、ほとんどの事業所は休業し、学校は休校となり、住民は自宅で待機するようになりました。4 月下旬には、一部の制限を緩和し、学校は「受け入れ人数を制限」して再開されるようになりました。事業は「顧客との物理的な接触」をしないことを条件に再開が認められました。個人の移動制限は続いたものの、市中感染の人数が減り続けたため、5 月半ばには緩和を進めました。政府は制限の緩和は 6 月 22 日に予定していたのですが、新規感染者ゼロの状態が 17 日間続いたため、6 月 9 日、全ての制限を前倒しして解除したということです。このようにして二ヶ月半で全ての

制限を解除して、安心して生活できるようになりました。

経済支援と生活支援の裏付けのもとに、17 日間の新規感染者ゼロの状態が続き、ロックダウンが解除され、元の生活が戻ってきたのです！これがまさしく政治の力です。

毎日 200 人台の新規感染者の拡大を続ける首都東京を抱える日本の状況を見ると、本当に羨ましいと言うほかありません。羨ましいと同時に、日本国民の課題も見えてきます。今の政治状況を作ったのは国民なのですから、選挙によって政治状況を変えることも国民の力で可能な筈です。

東京や大阪などの都市部で新規感染者ゼロの日を迎えることができるのは何時になるのでしょうか？今の安倍政権の元で、そのような時はやってくるのでしょうか？安倍首相は緊急事態宣言の解除の折に、「わずか１カ月半で流行をほぼ収束させることができた。日本モデルの力を示した」と自画自賛していましたが、今の感染拡大状況を見れば、とんでもない事実認識だったと言うほかありません。

ｽﾄｯﾌﾟ安倍改憲！「改憲発議に反対する全国緊急署名」を集めよう！

市民アクション通信

No.27
2020.8.11

発行 ＝ 安倍九条改憲NO！伊東市民アクション

署名集約先：伊東市職労付　〒414-0046 伊東市大原 2-1-1　Tel.0557-37-9134　Fax.0557-37-1347

１９日行動

天気も心配されましたが梅雨明けを思わせるような日射しのもと、二ヶ月ぶりのスタンディングを行いました。休日ということもあり市職労の若い組合員をはじめ、初めての方や車椅子での参加の方など３０名を越える人が集い横断幕や幟が風にはためいて通行人の興味を引きました。

最初にマイクをにぎった市職労の齊藤委員長は、医療・公衆衛生の脆弱さを招いたのを新自由主義政策によるものだ、と批判。続いて、反原労の北野さんが東海第二原発再稼働の危険性を訴えました。合間にみんなで「青い空は」を歌った後、三好さんがイージスアショア配備計画中止の理由を指摘しました。最後は声のトーンに気をつけながらも元気に「安倍退陣！」をコールして終わりました。

スタンディングの第一の目的は「アオキ」の買い物客やドライバーに宣伝・アピールすることにありますが、それだけではありません。今の政治に抗議し行動する人たちが、自分の他に何人もいるんだということを確認し、そこからエネルギーを得る場でもあると思います。そのことを実感させてくれた７月のスタンディングでした。

８月の「９の日行動」は予定を変更して５日に行いました。生憎この日は今年一番の暑さ。１０時の時点でもう３０℃になろうとしていました。集まった６人のメンバー(深田さん、山田さんが初参加)は熱中症に気をつけながら、地図とパンフを抱えて市役所周りの家々にポスティング。坂道を１５分も歩くと汗が目に入り頬を伝わり始め、３０分もすると熱気でボーっとしてきます。いつも以上に１００枚を配り終わるのが大変でした。１時間ほどして市役所に戻ると、伊藤さん達が涼しげな表情で待っていました。他方、私は直前の駐車場でのトラブルで、青い顔をしていたはずです。幸い熱中症にもならず、無事に５００枚を配り終えました。

（事務局：三好）

９の日行動

次回 ９月９日（水）午後２時
市役所ロビー集合